

平成30年度 常置委員会だより N0.1

組織・連携委員会編

北海道PTA連合会

平成30年7月11日（水）発行

平成30年6月30日（土）に第1回常置委員会が開催されました。その内容をお知らせ致します。

1. 組織・連携委員会では、平成30年度、次のような内容で研究を進めていきます。

1 研究テーマ

『ともに学び、行動し、連携するPTA活動と活性化のための組織のあり方』

2 研究の視点

研究テーマを追究するためには、委員会がこれまでの成果を踏まえ、各PTA活動の推進に役立つ有効な情報を主体的に発信することが重要であることから、次の2つの視点に基づき活動を進める。

*何を学び、どのように行動するのか（いつ、何を、どこで、ともに学び、行動するのか）

・PTA活動の目的を常に理解し、課題意識を明確にした活動を推進する。

*「誰と、どのように連携し、行動するのか」（誰と、どのように学び合い、行動するのか）

・子どもたちを支える活動を主体的かつ積極的に進めるための連携・協働体制を構築する。

3 研究の内容

(1) 昨年度の研究成果と課題

【成果】

- 「学校・家庭・地域の連携」の観点での「防災教育」において、先進事例を道P研究大会小樽大会で提言発表し、学校教育及び社会教育とPTA活動の連携体制の方向性について見いだすことができた。

【課題】

- 平成31年度道P研究大会札幌大会及びそれ以後の研究大会の提言発表に向けて、今後の社会の変化や子どもに求められる資質能力の育成の観点から、学校・家庭・地域の連携・協働体制の構築について、アンケートの実施等を含めた現状把握（実践事例）の方策について検討する

必要がある。

- コミュニティースクールの拡充など、学校と家庭・地域との新たな関係性において、PTAが主体的に子どもの育成に関わることができる方策・内容等について、早急に検討する必要がある。

(2) 今年度の研究の方向性

上記の課題の解決に向け、今年度は、以下の2点を中心に研究協議を進める。

- ア 昨年度に焦点化したテーマ「これからのPTAのあり方～コミュニティースクールとPTAの関わりとPTA役員の決め方～」に基づき、実践事例を把握する仕方を検討するとともに、平成31年度研究大会における提言発表の準備を進める。
- イ 平成33年度の研究大会提言発表に向け、学校と家庭・地域の連携・協働体制の構築に有効に関わることができるPTA活動のあり方について、研究を進める。

2. 次の方々が道P連組織・連携委員会の研究を推進しています。(敬称略)

委員長

①荒井由紀恵(副会長・石狩管内)

副委員長

②本間公浩(副会長・旭川市)

②菊川哲平(副会長・上川南部)

設楽正敏(副会長・道小校長会)

田中賢一(教師代表・小樽市立稲穂小学校長)

委員

①廣瀬 堅一(小樽市)

②神田 勇一郎(上川北部)

②山吹 卓也(宗谷)

②結城 慎也(留萌)

③岡 要樹(渡島)

④齊藤 彰大(日高)

④山木 広幸(胆振西部)

⑤田尾 航太(オホーツク中部)

⑤須貝 拓也(十勝)

⑤吉田 悟志(釧路)

*①②③④⑤は、ブロックを表しています。

*各常置委員会のこれまでの取り組みは、道P連のホームページの「常置委員会」をご覧ください。

北海道PTA連合会事務局

〒060-0003 札幌市中央区北3条西2丁目 共栄火災ビル7階

TEL (011)251-6937 FAX (011)210-0929

Eメールアドレス info@hokkaido-pta.jp